

に係る水源確保のためには流域におけるより厳しい森林保護が必要である。

一方、パナマ首都圏には下水処理場がなく、生活廃水が未処理のまま河川に流入し、パナマ湾を汚染している。廃棄物処理についても、収集システムの効率化、分別収集によるリサイクルシステム導入など取り組むべき課題は多い。

3) 環境政策

基本法は1998年に制定された。パナマ環境庁(ANAM)は米州開銀の資金を得て、国家環境プログラム(PAN)を実施している。

PANは、ANAMの能力開発、環境の業際システムの開発、優先度の高い環境管理の強化を目的とし、特に環境法の実施と管理の地方委譲のための再構築と制度強化と能力開発、法令・規則の施行、基本的環境管理の手段の開発、コミュニティの要望の強い環境改善事業などの財政支援に主眼を置いている。

PANは3つの要素から成っている。

- ・ANAMの強化、環境業際システムと地方分権管理の強化
- ・環境管理のための基準・規制・手段の開発
- ・環境管理イニシアティブ

3 - 3 自然環境保全分野における現状と問題点

自然環境保全分野においては、中米にはいくつかの研究センターがあり、それらの施設においては調査・研究、保全、利用それぞれの段階で、欧米の技術協力の下に活発な技術開発が進められている。それらの技術は世界的に見ても高いレベルにある。

調査・研究の段階では、熱帯雨林の樹冠部を対象とした様々な手法が試みられ、技術的蓄積も大きい。そのなかには、飛行船を利用する方法、樹冠部を覆うような形のイカダを利用する方法、そしてクレーンを用いた方法など様々なものが考案されている。それらの手法により、樹冠部に展開する豊かな生物相の全容が明らかになりつつある。

保全の段階では、特に自然の損なわれた地域を対象とした植林が、陸域、水域を問わず各地で行われている。植林には基本的に在来種を用い、必要に応じて経済的利用価値の高い果樹も植えられることがある。水域では、マングローブ林の消失した区域を対象とした植林が行われており、それに伴う問題点についても解明が進められている。例をあげれば、小型の巻貝が苗につくことによってそれを餌とする魚が苗を傷つけ、そこから病原菌が侵入して枯死につながるということが知られている。また、苗の表面を覆う緑藻類も、枯死の原因となり、これについては手袋を装着してこそぎ落とすという対策が考案されている。

ウミガメの保全についても、NGOを中心とした活動が行われている。中米地域では、食料とするためにウミガメの卵が採取され、個体数減少の原因となっているが、その卵の一部をゆずり受

け、人工的に孵化させて海へ戻すという方法である。買い取るのではなくゆずり受けることによって、問題意識を共有することが、この活動のひとつの目的である。

利用の段階では、新薬を開発するために植物から薬効成分を抽出する技術や、バイオテクノロジーを利用した園芸植物の品種改良技術等が、欧米から導入されている。これらは生物多様性保全につながる経済的インセンティブとして、重要視されている。

問題点は、高度な技術の蓄積がありながら、それらはごく一部の国や研究機関に適用されているにとどまり、その恩恵を享受できる地域がごく限られているという点である。中米域内でも、コスタリカやパナマなど、研究機関のある国ではそれらが中心となって技術の普及が進んでいるのに対し、それ以外の国々では保全区を設定したものの、管理計画が策定されていないものが多いという状態の所もあり、両者の間の格差が大きい。地域として自然環境保全を進めていくためには、その格差を是正し、地域内の国々ができるだけ技術を共有し、歩調を合わせていくことが重要であると考えられる。

3 - 4 自然環境保全の重点地域

(1) 自然環境保全の重点地域

CCAD の作成した“ Áreas Protegidas Prioritárias ”によれば、図 3 - 11 に示す 11 の地域が、優先度の高い地域としてあげられている。それらの各々について、以下に述べる。

1) マヤ生物圏保護区 “ Reserva de la Biosfera Maya ”(メキシコ、ベリーズ、グアテマラ)

マヤ生物圏保護区はペテン県にあるグアテマラで最大の保護林であり、210 万 ha(エルサルバドル共和国の面積とほぼ同じ)の面積をもっている。マヤ森林の中心部であり、メキシコとベリーズにわたる広大な地域である。区域内には 200 以上の遺跡、独特の生態系、そして世界的に知られた動植物相を有している。同保護区はまた、UNESCO の生物圏保護区としても世界的に認知され、文化遺産(ティカル)1 か所と、世界的に重要なラムサール湿地(ラグーナ・デル・ティグレ)1 か所を含んでいる。

同保護区はグアテマラ議会政令 5-90 によって法的に指定され、管理を行うためのゾーニングが設定されている。コアエリアは保護区の中心部であり、原則として保全と研究のために供されている。多目的ゾーンでは持続可能な資源利用活動を推進する。多目的ゾーンの大部分は地域住民の居留地として、厳格な持続可能管理計画の下に管理されている。区域内では持続可能な形で、木材・樹脂・木葉・オールスパイスが採取される。バッファゾーンは、マヤ生物圏保護区の資源に対する圧力をやわらげるための機能をもっている。同保護区は国家保護区委員会(Consejo Nacional de Áreas Protegidas : CONAP)によって管理されている。

同保護区内には、ティカル国立公園(Parque Nacional Tikal)、エル・ピラール文化遺産